

雨水出水浸水想定区域図に関するQ&A

Q1 雨水出水浸水想定区域図とは何ですか？

A1 水防法第14条の2に基づき設定した想定最大規模降雨が発生した際、下水道を含む雨水排水施設の排水能力を上回り、雨水が排除できなくなった場合に想定される浸水区域や浸水深を示した区域です。

Q2 想定最大規模降雨とは何ですか？

A2 概ね1000年に1回程度起こる降雨のことです。

本市の想定最大規模降雨は、国土交通省が作成した設定手順に基づき、1時間雨量130mmとしています。

なお、本市の下水道の整備目標として定める計画降雨は7年に1回程度起こる降雨で、1時間雨量50mm程度です。

Q3 時間最大130mmの雨とはどれくらいの規模ですか？

A3 近年の大雨であった2006年8月豪雨の降雨量は1時間雨量73mmであったため、約1.8倍となります。

なお、本市の計画降雨も1時間雨量50mm程度であり、約3倍となります。

Q4 なぜ雨水出水浸水想定区域図が必要なのですか？

A4 近年、下水道等の雨水排水施設の能力を上回る大雨が全国的に増加し、浸水被害が発生しています。そのため、令和3年の水防法改正により、浸水対策を行う全ての団体に雨水出水浸水想定区域を指定することとなりました。

この図は、既存の雨水排水施設で雨水を排除できないことで生じる浸水区域や浸水深を公表することで、浸水リスクをご確認いただき、速やかな避難行動、被害の軽減等を図ることを目的としています。

Q5 雨水出水浸水想定区域図を作成するにあたりどこを対象区域としていますか？

A5 下水道事業計画区域を対象とし、過去の浸水履歴等を勘案して、すでに施設を供用開始している西条排水区を対象としています。

Q6 過去に浸水している場所が図面上の浸水区域や浸水深さと異なっているのはなぜですか？

A6 雨の降り方、土地利用状況、雨水排水施設の落ち葉や土砂の堆積等、浸水シミュレーション上考慮できないため、想定される浸水区域や浸水深と異なる場合があります。

Q7 着色がないところでは浸水が生じないのでしょうか？

A7 【A6】と同様、図面上溢水していない場所でも浸水する可能性があり、浸水深も深くなる場合がありますので十分に注意してください。

Q8 雨水出水浸水想定区域図は河川からの溢水(外水氾濫)は考慮していますか？

A8 考慮していません。内水氾濫のみになります。確認されたい場合は、「中小河川ハザードマップ」をご確認ください。

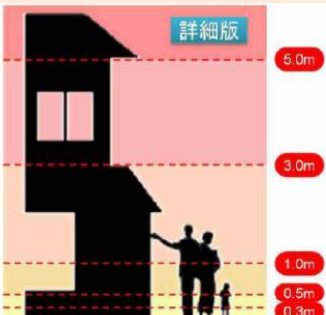
Q9 どれくらいの浸水深が予想されるのですか？

A9 浸水深区分については、内水浸水想定区域作成マニュアル(案)に基づいており、浸水深の目安は下図のとおりです。

なお、本市では3mを超える浸水シミュレーションの結果は出ていません。

また、浸水リスクをご確認いただき、速やかな避難行動、被害の軽減等を図ることを目的としているため、0.3m未満は1cm程度の浸水も含まれます。

浸水深等	詳細版
20m ~	220,122,220
10m ~ 20m	242,133,201
5m ~ 10m	255,145,145
3m ~ 5m	255,183,183
1m ~ 3m	255,216,192
0.5m ~ 1m	248,225,166
0.3m ~ 0.5m	247,245,169
~ 0.3m	255,255,179



(イメージ図)内水浸水想定区域作成マニュアル(案)より抜粋

Q10 既に市HP等で公表している区域図等との主な違いは何ですか？

A10 主に降雨の範囲や河川(外水)氾濫の考慮の有無が挙げられます。

東広島市ハザードマップ(内水ハザードマップ)は、市民の方等が理解しやすいよう、防災に関する情報等を加えて作成したものです。